



地域ボランティアプログラム
松木日向緑地プログラム
【プレ企画】

みんなで一緒に
たけのこ掘り
in 首都大・松木日向緑地

報告

2019/04/06、14、20

みんなで一緒にたけのこ掘り in 首都大・松木日向緑地

4月6日(土)、14日(日)、20日(土)、「地域ボランティアプログラム 松木日向緑地プログラム」のプレ企画として、連携団体である「ひなた緑地遊学会(以下、遊学会)」の方々の協力のもと、『みんなで一緒にたけのこ掘りin 首都大・松木日向緑地』を実施しました。

近隣の小学校の親子や障がいのある方々を招いて行われたこの企画は、今年で4回目(遊学会が単独で開催したものも含めると6回目)となります。

今年は、桜の開花時期が遅れるなど、全国的に寒い時期が長引いたことや雨があまり降らなかったこともあり、昨年に比べて、たけのこが不作でした。採れたたけのこは小さく、量も少なかったのですが、参加者の方々は「たくさん採れるのも良いけど、今年は宝探しみたいで楽しいね!」と、貴重なたけのこ一つひとつの収穫を喜んでいらっしゃいました。

・「自立ステーションつばさ」との活動

6日(土)は、障がい者の自立支援をしている団体「自立ステーションつばさ(以下、つばさ)」のメンバーと関係者の方々と、合わせて約30人と共に活動を行いました。つばさの方々は、このたけのこ掘りをとても楽しみにしてくださっており、毎年参加してくださっています。本学からは、ボランティアとして学生1人が参加しました。

朝はまず13号館前に集合し、みんなで自己紹介や準備運動等を行いました。自己紹介の時には、昨年も参加されていた方が、「今年もたけのこをたくさん探りたい!」という意気込みを話していました。

いよいよたけのこ掘りです。遊学会の方々が日頃から管理・整備している竹林へ向かいました。つばさのメンバーには、車いす利用者の方もいらっしゃいますが、竹林までの道中にある急峻な坂やちょっとした柵、段差などは、ボランティアの学生等がつばさの職員の方々と協力し、介助することで、無事に竹林にたどり着くことができました。

この日の竹林は、たけのこが生えていても頭をちょっとだけ出している程度で、地面をよく見たり、足で地面の起伏を感じ取らないと、たけのこを見つけられないような状態でした。それで

も、つばさの方々は落ち葉の下に隠れたたけのこを見つけて、楽しそうに収穫していました。車いすの利用者の方も地面に腰を下ろし、たけのこを探したり、掘ったりして、たけのこ掘りや春の自然を満喫されていました。



・近隣小学校との活動

14日(日)は、柏木小学校と南大沢小学校から100人程、20日(土)は、愛宕小学校から70人程の親子や先生方がそれぞれ参加してくれました。本学からは、ボランティアとして、14日の活動に学生10人、20日の活動に学生20人、職員3人が参加しました。

まず、サル山に集合し、全員で準備運動した後、竹林に入っていきます。子どもたちの足取りは軽く、たけのこ掘りを楽しみにしていた様子が見えかけました。

竹林では、落ち葉をかき分けながら地面に目を凝らし、たけのこを探しました。しかし、不作ということもあり、ボランティアの学生や保護者の方々はなかなかたけのこを見つけることができませんでした。その横で、子どもたちはどんどんたけのこを見つけていきます。視線が低く、地面に近いから見つけやすいのか、もしくは探す視点が鋭いのか、その理由は分かりませんが、地面からほんの少しだけ出ているたけのこの頭を見事に見つけていました。

掘る作業に入ると、地中に広がる竹の地下茎がたけのこに絡まっていたり、斜面に生えていてシャベルを差しにくかったりして掘りにくい場面が多々ありました。しかし、ボランティアの学生たちが子どもたちを励ましたり、アドバイスをしたり

しながら、一緒に掘ることで、子どもたちが無事にたけのこを掘り出すことができました。

たけのこ掘り以外にも遊学会の方や松木日向緑地プログラムの学生によるサポートのもと、竹の伐採体験も実施され、子どもたちは自分の背丈の何倍もある竹の伐採に挑戦しました。

14日の活動後には、柏木小の保護者の方々がつくってくださった「たけのこ飯」をいただきました。この「たけのこ飯」は、たけのこ等の具材を酢飯と混ぜ合わせて作られており、これが柚木地域伝統の作り方だと話されていました。実際に食べてみると、たけのこご飯と一緒に炊いたものよりも、たけのこのシャキシャキとした触感が感じられ、とても美味しかったです。

・ボランティアプログラムの成果

今回、たけのこ掘りを行った場所は遊学会が管理している竹林であり、「2018年度地域ボランティアプログラム 松木日向緑地プログラム」の活動として、整備してきた場所です。

プログラムの活動では、竹の間伐をして、地表近くの様々な植物に陽の光が当たるようにしたり、地面に落ち葉を撒いて、養分を地中に蓄えたりしてきました。

今年はたけのこが不作でしたが、それでも、これまで整備してきたエリアでは、他のエリアに比べ、多くのたけのこを収穫することができ、プログラムで取り組んできた活動の成果を実感することができました。



竹の伐採体験の様子